

高齢者骨折センター

概要と特徴

世界で最も高齢化率の高い日本では、高齢者の骨折が年々増加の一途をたどっています。その多くが骨粗鬆症を基盤とする脆弱性骨折であり、大腿骨近位、脊骨、手首に起こりやすく高齢者の日常生活動作能力を低下させ、健康寿命の障害につながります。

特に大腿骨近位部の骨折は、多くの場合早期に手術を行わなければ、歩行能力は著しく低下し、要介護状態になり、余命にも大きくかかわります。

しかしながら高齢者の場合、肺炎を起こしたり、慢性疾患（高血圧、心臓疾患、糖尿病、神経疾患）を有していることも多くあり、行うべき早期の安全な手術治療及び術後のリハビリテーションの障害になります。

当センターでは、これらに適切に対応するため、整形外科医だけではなく、内科医、麻酔科医、看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士、医療ソーシャルワーカーなどが協力して治療にあたります。この多職種連携診療を強化し、円滑にすることにより、いろいろな病気を有している高齢者の骨折に対しても、質の高い手術を、安全にかつ早期に行うことができ、早期リハビリテーションが可能となります。

スタッフ体制

渋谷 高明（しぶや たかあき）

【役職】

整形外科診療主任部長 兼 人工関節センター長
兼 高齢者骨折センター長 兼 リハビリテーション科

【専門】

股関節外科、人工関節外科、膝関節外科、コンピュータ支援手術

【資格】

医学博士、日本整形外科学会専門医、
日本整形外科学会リウマチ医、日本整形外科学会スポーツ医

津田 晃佑（つだ こうすけ）

【役職】

整形外科医長 兼 人工関節副センター長 兼 高齢者骨折副センター長

【専門】

股関節外科、膝関節外科、人工関節外科、コンピュータ支援手術

【資格】

医学博士、高度医療安全推進者、Infection Control Doctor、
日本静脈経腸栄養学会TNT研修会修了、Ai研修会修了、
日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会認定リウマチ医、
日本医師会認定産業医

整形外科医と共に、内科医、麻酔科医、看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士、医療ソーシャルワーカーなどがチームワークをもって治療にあたります。